

海外留学を成功に導く新しい学生寮

—留学前から始める集団生活による人間力の向上—

New Dormitory Leads to Successful Studying Abroad:

Kick-start the Journey Living

with Groups of Like-minded People before You Leave Japan

神田外語大学広報部主任 寺田 誠 教務課 梅村 茉莉奈

国際交流課課長 市川 透 国際交流課 木内 佳奈子

TERADA Makoto, UMEMURA Marina
ICHIKAWA Toru, KINOCHI Kanako
(Kanda University of International Studies)

キーワード：海外留学、教育寮、グローバル人材育成、リーダーシップ教育、留学支援

1. はじめに

近年、スーパーグローバル大学の採択や国際系学部・学科の新設など日本の大学におけるグローバル化は急速に進んでおり、様々な大学で留学制度の拡充、海外協定校の新規開拓が行われている。「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」といった国の政策もあり、大学生にとって留学の機会が身近になってきていることは確かであろう。だが単に海外の大学に留学をすれば国が育成目標として掲げているような、“産業界を中心に社会で求められる人材”、“世界で、又は世界を視野に入れて活躍できる人材”になれるわけではない。学生が充実した成果を得られる留学を果たすためには、何のために留学に行くのかといった留学目標の明確化や、異文化を正しく理解し、受け入れる心構え、多様な文化背景を持つ人々と共同生活を円滑に送るための英語力、コミュニケーション能力が必要不可欠である。つまり、海外留学を成功させるためには留学前の準備が非常に重要であると考えている。そのために本学では①English Speaker とコミュニケーションできる語学力、②異文化を尊重・受容・理解し、自国文化および自己を発信できる表現力の向上の2つに重点を置き、1、2年次に外国人教員と共同生活をする新しい学生寮 Kanda Academic English Residence (KAER: カエル) を2015年4月にオープンした。KAERは学生生活を支援するための寮としてだけでなく、留学を成功させるために寮生限定

の教育プログラムを組み入れた特別な教育寮として管理、運営を行っている。

名称：Kanda Academic English Residence (KAER：カエル)

所在地：大学から専用送迎バス約30分

建物・戸数：鉄筋コンクリート4階建 洋室26室 2015年4月全面改装

対象：英米語学科、国際コミュニケーション学科女子学生

入寮期間：最長2年間

家賃：75,000円/月

KAERの目的：実りある留学のためのグローバル社会で通用する英語力、人間力の醸成

KAERの特徴：◆日々の集団生活・異文化理解による社会性・人間性の涵養

◆寮生限定の特別講座による英語力・英会話力向上

◆English Speaker 監修の【留学のための自主講座】への参画による一般教養の修得



大学からは専用バスで片道30分の立地 (KAER 外観)



IKEAの家具で統一された女子寮ならではの可愛い個室(左)と共有スタディールーム(右)

本稿では外国人教員と共同生活するというKAERの各教育プログラムの内容とその成果、そして寮としての管理・運営体制について報告する。

2. 外国人教員が指導する寮生限定教育プログラム

KAERの教育プログラムの大きな軸である Supervisor (以下 SV) 制度について説明したい。海外留学をすればホームステイの形式または学生寮に入寮するなど、外国人と共同生活を送る必要があるだろう。日本にいながら外国人と共同生活を送り、留学した際スムーズに日常生活を送れるように、KAERでは、本学で正課の授業を担当している外国人語学講師がSVとして生活環境を共にし、寮内の教育プログラムを通して学習サポートやコミュニケーションを図る機会を提供している。具体的には4つの教育プログラムで学習サポートを行い、KAER独自の生活サイクルの中でSVとのコミュニケーションが生まれる工夫をしている。以下、寮内外での教育プログラムについて一つずつ取り上げたい。

(1) One to One Session

このプログラムは、自身の学習を可視化し、振り返りを行う個別面談を指す。寮生には「Journal」と呼ばれるワークシートが配布され、毎日学習に対するモチベーションや取り組んだ内容を簡潔に英語で記録、週末には1週間の自分の学習生活についてA4用紙1枚分のエッセイを書くことが課されている。Journalには学習についての疑問点や大学生活、留学や進路についてなど、毎日英語で自由に記録する。Journalを基に週に一回15分間、SVと寮内で個別面談を行うのがこのプログラムの特徴である。自身の学習の振り返りを通して、直面した課題や疑問を英語によるコミュニケーションで自己解決するサイクルを習慣化するのが狙いだ。入学当初は、毎日の記録や週一回のエッセイが大変だという声が多いが、次第に自身の学習記録が蓄積され、自分に合った学習サイクルの確立やSVからのアドバイスによる学び方の客観的指導を受けていく中で、記録することの必要性を感じると共に、楽しさを見出していくようになる。また、自分だけのポートフォリオとして蓄積されていくことが学習者としての自信にもなり、留学という長期の目標達成に対するモチベーションの継続に繋がっている。記録だけではなく、SVとの個別学習面談を行うこのOne to One Sessionは本学独自の自立学習者育成のメソッドを教育寮に応用した独自の取り組みである。



SVとの個別面談の様子

Day	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
English							
Back							
Time							
English							
Back							
Time							
English							
Back							
Time							
English							
Back							
Time							

Journal ワークシートの表面

(2) Presentation Skill-up Workshop

留学先では当然のことながら日本人はマイノリティーの存在になり、他者との関わり方に変化が生まれるだろう。つまり、黙っていても他者との交流機会がなかなか訪れず、孤立をしてしまう可能性があるということだ。また、外国人との共同生活において主張すべき点を主張しなければ、相手に同意しているものと捉えられ、誤解を招くことになりかねない。留学先で自分の伝えたいことを論理立てて英語で相手に伝え、相互理解を図ることができるよう、KAERではSVの指導の下、Presentation Skill-up Workshopという英語で行われる講座を月2回寮内で行っている。入寮後4月から12月までは神田外語グループが主催する『全国学生英語プレゼンテーションコンテスト』において上位入賞を目標に、SVから直接指導を受け、英語のプレゼンテーションに必要な以下の3つのスキルを磨く。

- ① <シナリオスキル>発表内容について論理的に筋道を立てて考える文章構成力
- ② <デリバリースキル>表情、姿勢、アイコンタクト、ボディランゲージなど、自分の考えを相手に届けるための表現力
- ③ <プレゼンス>聞き手の印象に残る、魅力的で圧倒的な存在感

寮生はお互いのプレゼンテーションを聞き、意見を出し合うことで自分のプレゼンテーションの弱みに気づき、改善することができる。これは同じ目標に向かって切磋琢磨し合える仲間がいるKAERならではのシナジー効果である。後半の1月から3月は前半での学びを振り返り、ブラッシュアップを行うことで、より完成度の高いプレゼン力を養成する。寮生はこのような取り組みを通して、実際に留学した際に、異文化の壁を越えて自分の意見を伝える知識やスキルを身につける。



Presentation Skill-up Workshopの様子



1年を過ごした寮生がオープンキャンパスで
KAERについて発表する様子

(3) Monthly Cultural Event

KAERでは、毎月1回、世界の習慣・風習・文化・歴史についての勉強会をイベント形式で開催している。ハロウィーンやクリスマスなどのただ楽しいパーティーを開くだけではなく、なぜそのイベントが開催されるのか、歴史や風習、宗教などについて留学先の知識に留まらず、世界の多様な文化的

知識を身につけることで、「留学中に現地の学生と会話やディベートができる日本人」になることが目的である。KAERでは、「世界の政治」「世界の祝日」「世界の葬儀」「世界の宗教」など、日本に馴染みのないトピックについても学んでいる。実際に留学をすると、日本の歴史や文化について聞かれることも珍しくないだろう。日本と諸外国では政治的、宗教的、歴史的に異なる価値観が存在する。その差異を知ることが、ときには海外における安全危機管理にもつながるケースがある。KAERの学生は、このように世界の文化を学びながら同時に母国である日本の文化や歴史にも目を向けて知識を蓄えている。



イースターで食されるクロスパンの生地作り体験

(4) 早朝講座 TOEFL Intensive Course

KAERでは上記の3つの寮内教育プログラムに加えて、学内で寮生限定の早朝英語特別講座「TOEFL Intensive Course (以下TIC)」を開講している。TICは学期中の平日週3日各回45分、正課授業の1限目の前に実施している。英語圏の大学への留学には、TOEFLやIELTSなどの英語力の基準が設けられており、また本学の英米語学科では、主に3年次の英語必修科目の履修条件にTOEFLを採用しているため、留学準備と正課授業の双方に効果的に作用させるべく、TICではTOEFL対策に主眼を置いたプログラムを開講することとした。TOEFL対策を専門とする日本人講師が講座を担当し、学生は各セクションについて徹底指導を受ける。1回45分の講座では、集中して問題を解き、解説時には各自の回答についてクラス全体で見直しをする。正解を理解した後は、ペアやグループで練習を行い、定着を図る。TICを受講したKAER一期生は、年度末の3月に実施するTOEFL ITPの1年生平均スコアを12月の時点で早期達成している。TICの学習効果はスコアアップに留まらない。早朝に学内で行われるTICに参加するためには、夜間の過ごし方や就寝時間について自己管理する能力が求められるが、TICは早朝に学内で実施されることもあり、早起きと時間管理の習慣が期待できる。大学は寮と大学間に専用バスを運行している。往路は早朝に行われるTICに合わせて大学に到着し、復路は毎日夜間に寮で行われるプログラムに間に合うよう運行している。TICの参加と専用バスの運行により、1日の活動

を習慣化する狙いもある。入寮後半年間は、慣れない大学生活とプログラムの両立に苦勞するが、この期間の生活面と学習面における習慣形成が、その後の大学生活の基礎となり、更なる自己管理が求められる留学生活においても非常に重要な力になると考えている。



開寮1年目の早朝講座の様子

このように KAER では寮内だけでなく、大学の施設も活用することにより包括的に教育を行い、寮生は英語運用能力だけでなく国際情勢に対する知識から外国人との共同生活における心構えまで留学に必要な予備知識を身に付けている。

3. 管理・運営体制

KAER では、寮生をサポートする先輩学生として、英語圏での認定留学¹経験がある3年生以上の学生2名をレジデントアシスタント（以下 RA）として採用している。RAには、自らの留学体験を活かして後輩の学習と生活の課題解決を手助けするとともに、自らのリーダーシップを育成する意思が求められる。KAER の寮生は留学という目標に向かって、正課の授業に加え、2で記述した KAER 専用の教育プログラムに取り組んでいる。これらのプログラム時間数は、正課外でありながら、月に14時間、半期に3単位相当の授業時間数に及ぶ。正課授業の課題、そしてこれらのプログラムの予習復習に費やす時間はこれに含まない。KAER は1年生と2年生を対象としているが、特に入学したばかりの1年生にとっては、大学生活と寮生活にいち早く慣れることが求められる。RA は、KAER に居住しながら、One to one session を除く KAER のプログラムに日々参加し、学生の様子を観察するとともに、月1回の寮生との個別面談を通して、個々の学習状況や悩みを把握し助言を行う。留学経験を積んだ RA の助言は寮生にとって身近で受け入れやすいものであると同時に、RA の存在が留学後の自分を描くためのロールモデルにもなる。RA は毎月の活動を月報として大学に提出し、それを基に担当職員と定期

¹ 認定留学とは、在学中に留学先で取得した単位を本学に単位振替をすることによって、原則4年間で卒業を可能とする留学制度である。認定留学期間は半年以上1年未満としている。

的に面談を行う。寮生の様子や自らの活動状況を振り返り、見直しと改善を図っている。

一方の寮生も、自立が求められる留学生活に向けて、生活面においても自己管理能力を身につける必要がある。各階に1年生、2年生が混住しており、全体をサポートするRAに加えて、寮生の中から各階をまとめるフロアリーダー（以下FL）を採用している。FLは2年生が担当し、1年目の居住経験を活かして後輩を指導、各階の階段や廊下、スタディールームなどの共用部分の共同清掃と、月1回実施する寮生対象の全体ミーティングに先駆けたフロアミーティングを統括する。

KAERには管理人が同居し、施設管理から居住者の在寮管理にあたっている。現在、SVの家族が管理人を務め、SV、RA、FLと連携をとって寮生の生活を支援している。また、大学へは月報を作成し、施設面、寮生の生活の様子など、寮内の状況を報告している。大学担当職員が管理人、SV、RAからの報告を受けて、定期的に寮を訪問し、課題解決に向けて、プログラム見学や管理人との面談を行なっている。

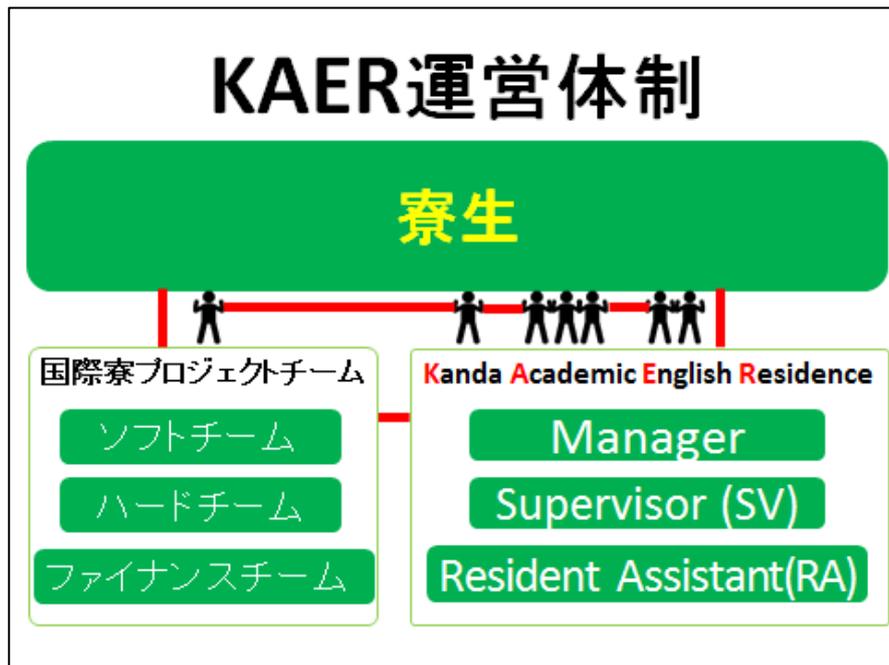
KAERの設立時には教職員を中心としたプロジェクトチームにより、こうした管理・運営体制が構築された。オープンから1年半たった現在は、現地の管理人1名と3名のSVの他、それぞれ広報課、国際交流課、教務課所属の4名の大学職員が主に管理・運営に携わっている。国際交流課は留学業務全般と留学生も居住する国際寮運営業務を担当しており、寮運営はもちろんのこと、英語圏への留学を目指すKAERの寮生をサポートするためのノウハウがある。広報課では、寮生の学びを発信することでKAERの学内外への認知を図るだけでなく、寮生自らが自身の学びを客観的に捉え自信に繋げる紹介ムービーの作成を担当している。また、高校生向けオープンキャンパスで高校生や保護者対応を行う在学生キャンパスアドバイザーの育成も行っており、共同生活を通してリーダーシップを醸成するというKAERにおいて、その育成手法の応用が今後期待される。そして、学習面においては教務課の担当職員を中心として、SVと共に教育プログラムの立案、改善を行っている。本学には、全国で先進的な取り組みとして高い評価を得ている自立学習センターSACLA²がある。SACLAには、本学の英語教育を実践と研究で支えるELI³と学習者の自立性を育成、支援するSALC⁴がある。KAERの教育プログラムは、本学が長年SACLAの運営で培ってきた教育法と学習支援を応用した本学独自のプログラムである。こ

² Self-Access, Communication, Learner Autonomyの略、通称サクラ。2003年にオープン、「英語の自立学習支援の新システム」が平成15年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に採択された。

³ English Language Instituteの略、通称イーエルアイ。国際社会で必要とされる高度な英語運用能力の育成に向けたカリキュラム開発、英語運用能力の測定に関する研究を行っている。所属教員は、英語教授法または応用言語学の修士課程以上を修了している語学教育の専門家で、正課の英語必修授業を担当している。

⁴ Self-Access Learning Centerの略、通称サルク。ELI教員同様、大学院で言語学や英語教授法を専門に学んだラーニングアドバイザーが常駐。学生一人ひとりの学習方法や教材の選定等、語学学習に関する相談を受け付け、個々人に合った解決策をともに見つける「アドバイジング・サービス」や、自立学習に必要な方法やスキルを身につける学習プログラム「モジュール」のサポートを行っている。

のように、KAER は携わる者がそれぞれの部署のリソースを最大限に活用しながら運営している。



KAER 紹介ムービー

<https://www.youtube.com/watch?v=9DvM6Hcn2BE>

4. おわりに

KAER は海外留学を成功に導く新しい学生寮として 2015 年にオープンして以来、目標達成に向けて独自の教育プログラムを展開している。現在 1 期生（2 年生）と 2 期生（1 年生）が入寮しており、日々お互い助け合いながら生活を共にしている。寮生は入学当初は学校の課題やクラブ・サークル活動、アルバイトなどがあり、教育プログラムについていくのがやっとという状態であるが、後期の授業が始まるころには KAER での生活、学習リズムが形成され、学校の課題と教育プログラムを両立してこなすことができるようになってきている。また、2 年生にもなると先輩としての意識が生まれ、学習面だけでなく、生活面においても自立し、自主的に活動することが後輩との関わり方やプログラムへの参加姿勢から窺える。

教育プログラムの成果として、英語力の向上については、寮生の英語資格試験のスコアの伸びは目覚ましく、概ね交換留学の基準を超えるスコアを 1 年次の半ばには獲得している。また、SV との共同生活と寮内外プログラムへの参加を通して、日常的に自分の意見を英語で発信する姿勢が身についている。寮生からは「寝起きでも英語を話す習慣が身についている」、「寮生全員が留学という同じ目標に向かっているので良い意味で競争心があり刺激になる」、「SV が身近な存在なので話す話題も多岐にわたり、授業では習わないような日常生活に関する表現も学ぶことができる」、「朝も夜も英語漬けな

ので英語力はもちろん、性格も変わるほど積極的になれる」など前向きな意見が聞かれた。

KAERは大学の学習とは別に留学のための教育プログラムがあるという厳しい環境だが、同じ目標を持った仲間がまわりにいることで助け合い、刺激され、頑張れるという「仲間の存在」が相乗効果を生み、成功の要因となっているのではないかと思われる。2016年12月には、KAER1期生の留学学内選考の時期をようやく迎えることとなるが、これからもKAERの寮生が誇りを持って留学を成功できるように教職員、SV、RA、FL、管理人が連携しながら、より良い体制を構築していきたい。